

とよ・たち 美肌通信

2月号

vol.163



とよ・たち

美肌通信

2月号 vol.163





2月



今月号の とよたち美肌通信の表紙は
2匹のネコと大崎さんはお父さん、お母さんの絵です。
見るだけでホッとできる、とても温かい家族ですね。
歌をうたって、絵本を読むこと、ぬり絵や工作をするの
大崎さんは女の子が描いてくれました。三輪車に乗るのも
得意なんです。今月はスペシャルバージョン！ なんと
お父様も一茶着に表紙を描いてくださいました。
かわいいお嬢様が 鬼い外〜！と豆まきをしているのでしょね。
忙しい時間の中で ステキに表紙を描いていただき
本当にありがとうございます。

院長（いぬ）スタッフ一同、

いぬい 感謝いたします。

「敬」には“うやまう”以外に“つしむ”の意を持つ。またそれら以外に“真心を込めてつとめる”という意味を持つという。学識の高い人の話によると「敬」とは現実には甘んじなくより高きもの、より貴きものを求めていく そういう心が敬であると説いている。

中華 夏殷周の時代、朱子という人物が編纂した「小学」という古典がある。その中の一つに「敬、急に勝てば吉なり 急、敬に勝てば滅ぶ」とある。敬しみの心が急りの心に勝てば吉だが、逆に急りの心が敬しみの心に勝てばその末路は滅びに至るということである。洋や古今の東西を問わず 個人や集団の栄枯盛衰は全てこれに通ずるのだと思う。

私は物事がうまくいったりするとすぐ楽をしようとする木俣な考えを起こしますが、自然界にはそういうことはないのだと言われています。自然界に生きる動物植物は皆必死に一所懸命に生きています。すぐ楽をしようとする心は、真心を込めてつとめ 現状に甘んじることなく高きもの貴きものを求めていく「敬」の心 そのものに反することだと思えます。中華の別の古典に「ただ謙のみ福を受く」というのがありません。

謙虚でなければ「幸福を受けることは出来ず」、幸福を受ける人は皆謙虚であるという意を示す言葉です。成功する人とは内に燃える様な情熱や闘争心を持ちつつも、実は極めて謙虚で控え目な人なのだと思います。

中華 明の時代、^{ちゆうふうざん}章楓山という^{せいかく}碩学者がいた。ある時 科擧に合格した人が彼を訪ねてきて、自分は科擧に合格したか 次のステップとして何を勉強すれば良いかを尋ねた。章楓山はそれを受け「小学」を学ぶことだと答えたという。科擧に合格した者に「小学を学べ」とは、人を馬鹿にするのも程かあるとその人は思ったが、碩学者である章楓山の言葉であるからと、その人は改めて「小学」を学び直した。すると程なく身に迫るものがあり、その人物は「小学」に韋編三絶した後 再び章楓山を訪ねたという。するとまた挨拶も終わらないうちにこう言った。「たいふ『小学』を学びましたね。」その人物はびっくりして何故分かるのかと訊ねると、真の学びは面にあられれ背にあふれると答えたと言う。章楓山は彼の体全体に「敬が急に勝つ」気がみなぎっていることを感じたのであろう。心の持ち様や気を敬に向かわせるのか、急に向かわせるのかは、大七刀であるということなのだと考えさせられる。真に身に詰まる思いである。

院長、拝